

～我が家のブーム～

我が家は、皿回しがブームになっています。
 弊社では、お正月にコメディ・クラウン・サーカスを開催していますが、そこの売店に販売しているものは、結構はまります。はじめはバルーンアートのセットを購入しました。見本を見ながら作ってみると案外簡単にできるものです。作ると娘もよんでくれるので、楽しいです。
 翌年には、皿回しセットを購入して練習しました。高校生の子供たちは、上手ですぐに回せるようになりました。大人は時間はかかりましたが何とか回せるようになり、最近は小学1年生の娘も練習し、ついに家族全員で回すことができました。
 コロナ禍で、サーカスが開催できずに残念ですが、今度機会があれば、ジャグリングに挑戦してみようと思います。



中島 大吾

私のつぶやき

～充実した日々～

2～3年前までの私は、毎日、朝出社したら一日事務所の中で過ごしていました。その頃も日々充実していましたが、ここのところ少しずつお客様にお伺いすることが増えてきました。実際にはまだまだご迷惑をお掛けしてしまう事もあります。「今、私に出来ること」「今の私だから出来ること」、そしてそこに、「お客様の求めていること」を付け加えることで、独りよがりにならず物事を進めていけると信じます。
 そんなありがたい毎日に感謝しながら、これからも日々を過ごしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



佐々木 康恵

10～12月の税務・お知らせ

- ・10月・・・個人の住民税の納付
- ・11月・・・所得税 第2期分予定納税額の納付
- ・12月・・・給与所得の年末調整



お休みカレンダー

2021年 10月							2021年 11月							2021年 12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	20	20	20	20	20
24/31	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31	

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！
 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol.50
秋号

2021年10月

株式会社ビジネスプラン
第37期 経営計画発表会



益田の紅葉



すっか涼くなりました。
 朝夕の気温差には気を付けていきましょう♪

山口県萩市内にて

さわやかな秋空ですね♪



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
 TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
 E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
 HP http://annokaikei.com

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお受け取りいただき、ありがとうございます。

去る9月17日（金）に、プレジャー企画の大棟耕介先生をお招きして、オンラインで第30回ビジネスプラン特別講演会を開催いたしました。冒頭、音声トラブルがあり、ご視聴下さった皆様には大変ご迷惑をおかけしました。またその後のURLのメール配信においても、至らない点多々ございましたことを心よりお詫び申し上げます。今後はこのようなことのないよう、改善に努めて参る所存ですので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

今回は弊社としても初のオンライン開催でしたが、個人的には、講師先生の熱量が伝わりやすいリアル開催に勝るものは無いと思っていますので、来年は皆さまとリアルでお会いできることを願っております。

話は変わりまして、弊社では、10月から37期目に突入しました。1日には経営計画発表会を開催し、今期の方針を発表したところです。今期も引き続き、「2人担当制」の推進を行い、また、はんこレスの時代の流れに対応した署名・押印の省略などにも取り組んでいきます。お客様におかれましては、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いします。加えて、対象となるお客様には、10月から登録が開始したインボイス制度についての小冊子を同封いたしました。こちらは簡単な概要や注意点が掲載されているものになります。詳しくは、弊社担当者までお問い合わせ下さいませ。

相変わらず、不確定で先の見えない状況が続いています。とりわけ新型コロナの影響が直撃している業種は、本当に苦しんでいらっしゃると思います。残念ながら、弊社が即効性のある解決策をご提示できる訳ではありませんが、相談相手にはなれますので、お気軽に担当者または弊社までご連絡下さい。それでは秋号も、よろしくお願いします！

「学習定着率」を高める仕組みはありますか？



「人間は忘れる生き物」だと言われます。

有名な「エビングハウスの忘却曲線」によると、人は、20分後には42%、1日後には66%、2日後には73%の情報を忘れるそうです。私なんて、数分前のことすらほとんど忘れてしまうので、曲線の傾斜がさらに急（！）なのかもしれません（汗）。

これに似た研究で、アメリカの国立訓練研究所が「学習定着率」について調べた結果があります。それによると、最も効果が低いのは「講義を聞くだけの時」で、その場合の学習定着率は、なんと5%。聞くだけだと、95%は忘れるそうです。

確かに、私自身、これまでさんざん講演会やセミナーに参加してきましたが、その大半は忘却の彼方へ消え去りました。ノートをパラパラめくってはじめて、「あ、そういえばこんなこと学んだな～」と思い出すレベルです。メモすら取っていなければ、それらに費やした時間とお金は無駄になっていたでしょう。

では、どうすればより多くの情報を記憶として残せるのか？

この点、同研究によると、「人に教えた場合」の学習定着率は90%となり、聞いているだけの5%と比べ、18倍にまで効果が上がるのだそうです。正直、これほどまでに差があるとは思いませんでした。

これを会社において活用するならば、経営者は、必然的にアウトプットの機会が多くありますが、社員の学習定着率を高めるためには、社員がアウトプットする機会を意図的につくるべきでしょう。なにせ、聞いているだけと教えるのとでは、効果に18倍の差がありますので・・・

ちなみに弊社で「3分間スピーチ」や「社内木鶏会」や「月次決算道場」（＝月次説明の練習）など、アウトプットの場を多く設けているのも、その取組みの一環となります。

ぜひ、「人に教える」を日々の業務の中に取り入れてみてはいかがでしょうか。

学習定着率が高まり、1人ひとりの成長につながるはずです。



代表取締役
安野 広明

セミナー 紹介

第30回ビジネスプラン特別講演会

30回目の節目となる特別講演会は、完全オンラインで、プレジャー企画の大棟耕介先生にご講演頂きました。

初の試みということで、私たちもお客様のお顔が見えず、不安もありつつ本番を迎えましたが、多くのお客様に視聴して頂き、「楽しかった」、「大変勉強になった」などのご感想を頂きました。開催の趣旨でもある、「世の中の雰囲気」が暗い中で、明るく、元気な気持ちになれる場をつくりたい」を少しでも形にできたなら、嬉しく思います。

大棟先生、ご視聴下さった皆様、ありがとうございました！

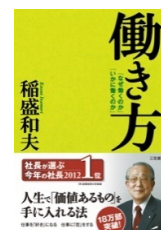


体全体を使いユーモアたっぷりに
講演して下さいました。



なんと大道芸を実演！

本の紹介



『働き方』

著者：稲盛 和夫

人々が働く意義やその目的を見失っていることを問題視した稲盛さんが、ご自身のこれまでの人生を振り返り、経験を踏まえて、働くことの大切さを語っておられます。

稲盛さんも若かりし頃は、中学、高校、大学そして就職に至るまで何一つ自分の満足するような結果を出せずに悩まれていたそうですが、誰よりも仕事を好きになろうと昼夜を問わず精一杯働かれていたそうです。一度きりの人生を豊かに、幸せに生きていく手段として「仕事を好きになり、精一杯働くこと」が最も重要であると考えさせられました。働くことの意義や目的に悩まれている方は、ぜひ読んでみてください。



橋本 一輝

「全集中！」で力を発揮するための環境づくりを



誘惑が多く、注意散漫となり、集中するのが難しい世の中になったな～と感じます。例えば、Youtubeを視聴していると、必ず関連動画が出てきて、それがまた、自分が視たくなるような魅力的な動画だったりします。

しかも毎回、同じ動画がアップされる訳ではなく、もう二度と視れないかもしれないので、「ここで見ておこう」と、ついポチッと押してしまう・・・。そうやって夢中になっていくうち、いつの間にか時間を浪費し、ふと我に返った時、「そもそも何を調べようと思ったんだっけ？」とか「何でこんなことしてるんだっけ？」となる。

そういったことが、Youtubeのみならず、Facebookやインスタなどでも起きているとすれば、・・・集中なんてできませんよね。昨年流行した、「全集中！」をすること自体が難しいのです。

しかしこれでは意識が分散され、その人が持つ本来の力を発揮できなくなる恐れがあります。

虫めがねを使い日光を集めることで紙が焦げるのと同じように、はたまた、石の目をつくると大きな石でも割れるのと同じように、一点集中の持つ力には計り知れないものがあります。集中こそが人間の潜在能力を引き出してくれるはずです。もしも何もせず今のままだと、ますます注意散漫となり、ある意味、人間の脳がSNS(AI)に支配されてしまうかもしれません。(・・・と、本気で懸念しています)

物理的にスマホとの距離を置く、SNSの通知音が鳴らないように設定する等、「全集中！」で力を発揮するための工夫や環境づくりこそが、かなり重要なテーマになってきていると感じる、今日この頃です。

大切なのは、自分の頭で考えて行動すること



1つだけ正解を出さなければならない学校教育の影響もあってか、私たちはつい、絶対的な1つの答えを求めてしまいがちです。

しかし社会人になると、当然ながら、答えが1つではない訳でして・・・。

そこには様々な考え方・価値観の人がいて、場合によっては、同じ人でも昨日までと言っていることが変わる場合があります。

私自身、社会人になりたての頃はかなり戸惑いましたし、先輩を真似して「そういうものだ」と思ってやっていた行動が、今となって考えれば、けっこう恥ずかしい(未熟な)ことだったと分かったり(汗)。

そして、そのように、答えが1つではない前提において大切なのは、自責のスタンスで、なおかつ、自分の頭で考えて行動すること、これに尽きます。例えば、現在の新型コロナウイルスに関しても、マスコミの情報を鵜呑みにしたり、周りの意見に流されるのではなく、「答えは1つではない」という前提で、自分なりにネットや本で調べたり、考えるのが望ましいと思っています。

また会社経営に関して言えば、自社の属する業界内に答えを求めるのではなく、他業種をベンチマークしたり、研究することが重要です。

きっと、自分たちの(業界内の)常識が世の中の非常識だということに気付かされると思います。そしてそこから、自社なりの理想の姿を導き出し(=考え)、具体的なアクションへと落とし込む(=行動する)のです。

「手を打てば 鳥は飛び立つ 鯉は寄る 女中茶を持つ 猿沢の池」(*)という和歌にあるように、捉え方は人それぞれですし、答えは1つではありません。

*池のほとりにある茶屋で、手を「パンパン」と叩くと、鳥は驚いて飛び立つ、池の鯉は、餌の合図とばかりに寄って来る、茶屋にいる女中さんは、注文がきたと思って茶を持っていく。「一つの事にも様々な受け取り方がある」ことを意味する。

とにかく感性のアンテナを高く張り、視野を広く持った上で、自分の頭で考えて行動することを心がけたいものです。

組織力の源泉は、ネガティブな要素にこそ眠っている

組織力の源泉とは何か？メンバー個々人の高いスキル、円滑なコミュニケーション、相手を褒める、プラスの言葉を使うなど、様々な要素が挙げられるでしょう。

もちろんそういったポジティブな要素が力になるのは間違いないのですが、私はそれ以上に、相手に間違いを指摘したり、注意したり、失敗したり、周囲に助けを求めたりなど、ネガティブな要素の中に源泉があるのではないかと感じています。

なぜなら、人にも組織にも陰と陽があって、「陰極まれば陽となり、陽極まれば陰となる」というように、陰と陽とは2つで1つ。誰しもポジティブな側面（＝陽）にばかりに目を向けたがりますが、実は、ネガティブの中にこそ、陽に転じ、組織を発展させるためのヒントがあると思うのです。

ただし、上記のようなネガティブ要素を、個々人の力だけで実践していくのは、決して容易ではありません。

それはおそらく、「できるなら波風を立てたくない」といった保守的な心理や、「ダメな奴だと思われたくない」という自尊心など、ある意味、人間らしさ（＝弱さ）から来るものでしょう。

したがって、大事なのは、個々に委ねるのではなく、いかに組織としてネガティブなことを言いやすい雰囲気（＝社風）をつくるかだと考えています。つまり、「安心・安全なオリンピック」ならぬ（？）、「（心理的に）安心・安全な組織」にするのです。社風を良くすることの本質は、そんなところにあると思っています。

そのように考えると、弊社を含め、多くの会社は、まだまだ組織力が眠っているはずです。ネガティブな要素を、力に変えて行きましょう！

< 安野からのおすすめコーナー >

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

📖 ビジネス書『最高のリーダーは何もしない』（著者 藤沢久美）

大手企業から中小・ベンチャーまで、千人以上のトップリーダーたちにインタビューしてきた藤沢氏によるリーダー論。ただし、タイトルを真に受けてはいけません。浅はかな私はちょっと期待してしまいましたが(汗)、そう甘くはないようです。つまり、優秀なリーダーが本当に何もしない訳ではなく、プレイヤーとして多忙を極めることはないけれども、それ以外の考える仕事はめっちゃ実践しているということ。これまでの「即断即決、勇猛、大胆、カリスマ、ボス猿」といったリーダー像は過去のもので、一流リーダーの多くは、「(ポジティブな意味で)内面的、心配性、繊細」なのだそうです。これからの時代、リーダーとしてどのように発想を転換すべきなのか。ヒントが書かれています。

🎬 映画『アマデウス』（監督 ミロス・フォアマン / 製作 1984年）

凍てつくウィーンの街で自殺を図り精神病院に運ばれた老人。彼は自らをアントニオ・サリエリと呼び、皇帝ヨゼフ二世に仕えた宮廷音楽家であると語る。やがて彼の人生のすべてを変えてしまった一人の天才の生涯をとつと語り始める…。若くして世を去った天才音楽家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの謎の生涯を、サリエリとの対決を通して描いた話題作です。あくまでフィクションですが、美しい映像と物語の展開に引き込まれます。昔、この映画を観たのをきっかけに、ちょっとだけクラシックにはまりました。今でも気分転換に、レコード盤でモーツァルトの『レクイエム』を聴いたりしています。

🎬 映画『AI崩壊』（監督・脚本 入江悠 / 主演 大沢たかお）

舞台は2030年。高齢化と格差社会が進展し、人口の4割が高齢者と生活保護者となり、医療人工知能(AI)「のぞみ」が全国民の個人情報などを管理していた。そんなある日、「のぞみ」が突如として暴走を開始。「人間の生きる価値」を勝手に選別し始め、生きる価値がないと判定された人間の殺戮を開始した。警察は「のぞみ」を暴走させたテロリストが「のぞみ」の開発者である天才科学者・桐生浩介だと断定。逃亡する桐生を、AI監視システムを駆使して追跡する…。日常生活に身近な存在としてAIが描かれており、けっこうリアルな未来だと感じました。誰がどういう目的でAI(＝手段)を用いるのかによって、真逆の世界になる。要は、利用する人間しだいで、天国にも地獄にもなるのです。ということは、目的を定める立場の人に人間性が備わっていなければ、現実世界でも、この映画のような未来が起り得るかもしれません。恐ろしや…